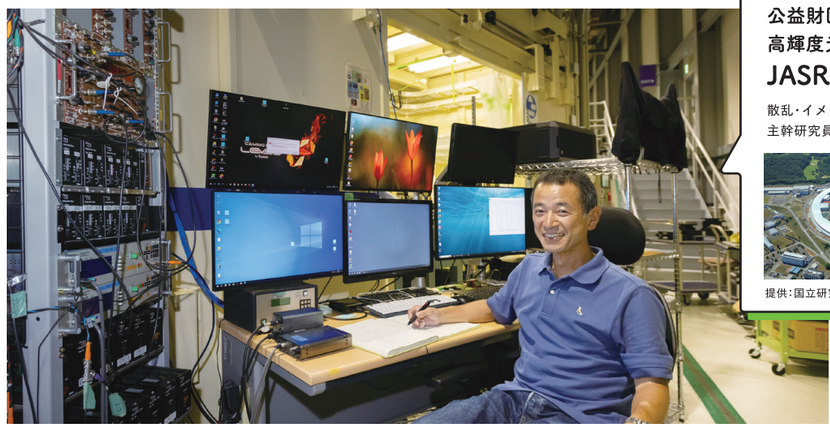
SUPPORTERS VOICE

新たな価値を一緒につくる、島根大学の共創パートナー



公益財団法人
高輝度光科学研究センター
JASRI

散乱・イメージング推進室
主幹研究員　竹内晃久さん

提供：国立研究開発法人理化学研究所

世界最先端の大型施設を活用した研究

兵庫県佐用町にある※大型放射光施設SPring-8、※X線自由電子レーザー施設SACLAは、物質をナノメートルサイズまで観測できる世界最先端の分析装置を用いて、研究開発や技術開発を行うことができる大型研究施設です。日本全国の大学や国の研究機関、民間企業などの研究に供用されるSPring-8には年間1万人の研究者が訪れ、創出される論文は年間約1200編を数えます。この施設で利用者選定と利用支援を行っているのが、高輝度光科学研究センター（JASRI）です。

材料エネルギー学部が発足した2023年4月、JASRIから同学部の教員として2名の研究者が着任したことをきっかけに、JASRIと島根大学は包括連携協定を締結しました。JASRI所属の研究者9名が島根大学の客員教授等として研究に携わることになり、今後は研究施設や設備の利用をはじめ、人材交流や共同研究、人材育成まで広く連携していきます。

JASRIで長くさまざまな研究サポートに関わってきた竹内晃久さんも客員教授のひとり。昨年度から、材料エネルギー学部1年生の施設見学を担当しています。最先端の研究が行われている周長約1.5kmの長大な実験施設は24時間稼働。昼夜問わず、研究に没頭している研究者の様子を垣間見ることができるのも学生に大きな刺激を与えています。「世界中の様々な研究者と交流できますし、そこで刺激を受け、視野を広げる経験は今後どの分野に進むにしても大きな自信になるのでは」と竹内さんは話します。「積極的にSPring-8を活用してもらいたいですし、JASRIで一緒に働く仲間にもなってほしいですね」と今後のつながりを楽しみにしています。

※SPring-8／太陽の100億倍もの明るさに達する「放射光」という光を使って、物質の原子・分子レベルでの形や機能を調べる事ができる研究施設です。兵庫県の西部、播磨科学公園都市にあり、直径約500mの大きな円形をしています。
※SACLA／太陽の100億倍の明るさであるSPring-8の光の、更に10億倍という非常に明るい「X線自由電子レーザー」を発生させて、それを使って物質の極めて速い動きや変化の仕組みを原子レベルで解明する世界最高性能の研究施設で、SPring-8と並んで設置された全長700mの施設です。

材料エネルギー学部では、開設初年度より1年生希望者によるSPring-8/SACLA見学を行っています。普段はなかなか見ることのできない壮大な研究設備に入り、研究者の方の話を聞くことができる貴重な機会です。

オープンイノベーション推進本部長　亀井 淳志

産学官連携はオープンイノベーション推進本部へ！

＼気軽にご相談ください！／

連絡先　オープンイノベーション推進本部
https://www.openinnov.shimane-u.ac.jp/

オープンイノベーション推進本部は、産学官連携の推進を図り学内外のネットワークを強化し、産学官連携の共同研究を通じてその研究成果を社会に還元し、地域産業の振興やイノベーションを創出する皆様の真の共創パートナーを目指します。

Let's 学生広報サポーター

大田市での観光実践フィールドワークを取材

島根大学クロス教育「観光教育プログラム」の中の観光実践の授業で、大田市で2日間のフィールドワークが行われました。島根県立大学の学生も参加し、「石見の火山が伝える悠久の歴史」―"縄文の森""銀の山"と出会える旅へ―をテーマに観光について学びました。

1日目はまず物部神社、佐比賣山神社でその由緒や歴史について学び、その後は三瓶小豆原埋没林公園で地下にある約四千年前のスギの巨木群を見学。当時の状態を残す貴重なもので国の天然記念物に指定されています。現在の森林よりはるかに背が高く太い幹を持つ木々は、巨木ができるまでの悠久の歴史と自然の偉大さを実感させました。

三瓶山を構成する峰の一つ、大平山の山頂から見る景色は自然豊かな大田市ならではの絶景で、夜には夜空いっぱいに輝く星を見ることができました。また「山の駅さんべ」では（株）necco代表の方から、大田市の持つ魅力や、山の駅を始めたきっかけなどをお話しいただきました。

2日目には、波根西の海岸にある珪化木（樹木の化石）を見学。大きな珪化木は国の天然記念物に指定されています。また、温泉津町福光にある福光石の石切場では、その歴史や特徴について学び、石の加工に使う「ふいご」という道具の体験も行いました。

最後は温泉津温泉街を訪れ、WATOWAの事業についてお話を伺いました。WATOWAとはゲストハウスと飲食店等が一体となった観光事業で、過疎化が進む温泉津において中長期滞在者に魅力を感じてもらい、移住者の増加をねらって行っているそうです。温泉津の街並みを歩きながら、ゲストハウスの見学も行いました。

このフィールドワークで日本遺産というストーリーに基づいた一連のスポットを訪れ、三瓶山や石見銀山の歴史を様々な面から学び、大田市という地域の背景を感じることができました。観光が持つ"そこでしかできない体験"を探し、様々な地域へ訪れてみたいと思うきっかけを与えてくれた最高の体験でした。

（取材・撮影　学生広報サポーター　S・T、T・H）

島根大学淞風祭に潜入取材

10月13日（日）と14日（祝）の2日間、松江キャンパスにて第74回淞風祭が行われました。2日目の様子をレポートします。会場となったメインストリートには36の屋外企画ブースが設けられ、多くの来場者で賑わいました。模擬店は国際色豊かで、モンゴルの伝統料理「ホーショール」や、マレーシアの料理「カリパップ」なども提供されました。どちらも実食しましたが、「ホーショール」はあつあつな生地の中からチョコレートが溶け出していて美味しく、「カリパップ」は独特な生地とカレー風味のあんが絶品でした。

屋内では「総合環境エコロジーネットワーク」が松江市の生き物展示を実施。多くの生き物が展示されていたほか、ザリガニ釣り体験もあり、大人も子どもも楽しんで生き物の生態を学べる場所でした。部長は「社会貢献の一環として行っており、この展示で松江の生き物をもっと知ってほしい。普段は実際に外へ出て観察を行っています。」と話しました。

別の場所では、鐵道研究会による第3回大鐵道研フェスタが開催されました。鉄道物品の展示や、運転シミュレーター「電車でGO!!」で運転体験ができ、会長は「電車は子どもたちに人気なので、楽しんでもらえると思い開催しました。地域貢献のため、NPO法人の活動や、木次駅で開催された『みんな集まれ！き♡駅フェス2024』の手伝いにも参加しました。鉄道を通して地域を盛り上げたいです。」と話しました。取材した2つのサークル・研究会は共に「地域貢献」を重視しており、展示を通して子どもたちに学びと笑顔を与えている姿が印象的でした。

学園祭に参加した法文学部の1年生は、「規模が大きくて大学の文化祭という感じがしました。大賑わいで楽しかったです。」と感想を話しました。私も取材しながら様々なブースや展示を回りましたが、学生や先生方、そして学園祭を訪れた地域の人たちまで多くの方の笑顔があふれる様子を見ることができ、大学と地域が一体となった学園祭だったと思います。

（取材・撮影　学生広報サポーター　H・K）